

東京言語研究所 集中講義のご案内

東京言語研究所では、言語学を研究されている方や言語学に興味をお持ちの方を対象〔理論言語学講座〕をはじめとして様々な講座を開講しております。〈集中講義〉は、多様な研究の一領域を集中的に学べる講座です。ぜひご参加ください。

〈演題〉 オノマトペの言語科学

〈講師〉 秋田 喜美（名古屋大学准教授）

〈日時〉 2024年3月23日(土) 10:30~16:15 (90分講義×3コマ)

24日(日) 10:30~16:15 (90分講義×3コマ)

〈講義形式〉 ZOOMによるオンライン講義

〈参加費〉 一般 12,000 円

2023年度理論言語学講座受講生 9,000 円

〈申込み〉 ホームページ「[申込みフォーム](#)」

もしくは QR コードからお申込ください。

※ 申込み受付期間:

2月9日(金)10:00AM~3月18日(月)10:00AMまで



講師紹介:

名古屋大学文学部・大学院人文学研究科准教授。専門は認知・心理言語学。神戸大学大学院文化科学研究科博士課程修了(博士(学術))、日本学術振興会特別研究員 PD(東京大学、カリフォルニア大学バークレー校)、大阪大学大学院言語文化研究科講師、名古屋大学大学院国際言語文化研究科准教授、国立国語研究所客員准教授を経て、2017年より現職。著書に『オノマトペの認知科学』(新曜社、2022)、『言語の本質:ことばはどう生まれ、進化したか』(中央公論新社、2023)、編書に *Ideophones, Mimetics and Expressives* (John Benjamins, 2019)、*Oxford Handbook of Iconicity in Language* (Oxford University Press, 2025) などがある。

○ 問合せ先

一般財団法人ラボ国際交流センター 東京言語研究所

〒169-0072 東京都新宿区大久保 1-3-21 ルーシッドスクエア新宿イースト 2 階

TEL:03-6233-0631 FAX:03-6233-0633

E-mail:info@tokyo-gengo.gr.jp 公式サイト:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

西洋言語を中心に据える言語研究においては、犬の「ワンワン」や鐘の「ゴーン」のような幼稚な表現は言語の周縁的存在でしかなく、規則性も探究の価値もないと考えられてきました。しかし、これらのオノマトペ（擬音語、擬態語）はアフリカ、アジア、南アメリカなどの多くの言語で重要な役割を果たすことがわかってきており、近年、特に認知科学において注目を集めています。本講義では、日本語のオノマトペを出発点としつつ、世界の言語を見比べることで、オノマトペとはどのような言葉か、オノマトペにどのような研究の意義があるのかを考えていきます。具体的には以下のようなテーマを扱う予定です。

問題設定：オノマトペとは何か

類像性：言葉が絵のようであるとはどういうことか

音象徴：音と意味の結びつき

意味的特徴：階層性、多感覚性、多義性

形式的特徴：表出性、マルチモーダル性

認知科学的展開：言語獲得・進化

<タイムスケジュール>（予定）※時間配分は講義の進行によって前後する場合があります。

3月23日（土）

10:30 講義—1
 12:00 講義—1 終了 休憩 昼食
 13:00 講義—2
 14:30 講義—2 終了 休憩
 14:45 講義—3
 16:15 講義—3 終了

3月24日（日）

10:30 講義—4
 12:00 講義—4 終了 休憩 昼食
 13:00 講義—5
 14:30 講義—5 終了 休憩
 14:45 講義—6
 16:15 講義—6 終了